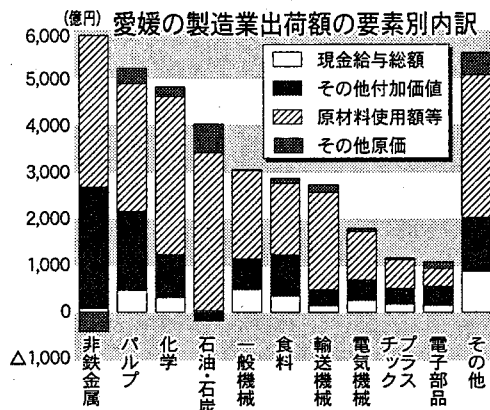


ピックアップえひめ

愛媛県の製造業の出荷額は、非鉄金属、パルプ、化学、石油・石炭の順となっています（2006年）。今回は出荷額ではなく、地域に残り分配される付加価値額に着目してみます。なお、付加価値額は現金給与額とその他（設備関係費など）に分けました。

出荷額の多い業種順に並べ、その要素ごとに積み上げたものが下記のグラフです。白色が現金給与額、黒色がその他の付加価値額で、黒色の高さが総付加価値額の水準を示します。付加価値額の順位は非鉄金属とパルプが上位で変わりませんが、原材料費のウェイトが高い石油・石炭が下がり、食料や一般機械などの加



付加価値額に着目

工組立産業が上がるのが分かります。なお、同じ加工組立でも輸送用機械では原材料の購入ウェイトが高いため付加価値額は少なくなっています。一方、現金給与額（白色）でみると、パルプ、一般機械、食料や化学が高くなっています。

地域に残る付加価値額が多い産業に焦点をあてることも今後の地域経営のひとつのあり方になります。雇用数を含めて考えれば、愛媛県にとっては、一般機械や食料産業が育成または誘致するのに有意義な産業と言えます。

（日本政策投資銀行松山事務所長・門松功）

さまざまなデータに独自の分析を加え愛媛経済の現状や方向を探ります。

□ 誘致効果高い業種は？ □